

平成 19 年度「学生による授業評価」報告書の概要

平成 17 年 4 月に開学した県立広島大学は、これまで「学生による授業評価」の調査を、専任教員のみならず非常勤講師担当科目も含め、4 回実施してきました。第 1 回目は平成 17 年度後期に開講された授業科目を対象に、平成 18 年 2 月に行いました。続く第 2 回目は、平成 18 年度に初回の調査とほぼ同様の要領で、前期開講の授業科目について 7 月に実施しました。そして、開学 3 年目の平成 19 年度は、先の 2 回の結果と比較することを考慮して、前期・後期の 2 回実施しました。その調査内容（質問項目）については、学生の負担と結果の信頼性・有効性を高める観点から、高等教育推進部門会議で議論を繰り返してまいりました。その結果、個々の授業での改善や成果の検証を目的とする設問は、各授業担当者が独自に設定した方が有効であるとの認識から、担当教員の個別質問を 3 項目まで設定することを可能にしました。

幸いなことに、初回調査から今回まで、調査の実施率は 90% を超える実績を保っています。こうした高い実施率は、授業改善に向けた本学教員の積極的な姿勢を示していると言えます。また、本報告書には、担当教員コメントとして、各教員の授業評価に対する意見や授業改善案等を掲載しています。このコメントの提出率もきわめて高く、実施率と同様、本学教員の真摯な取組がうかがえるところです。一方、調査自体に消極的な姿勢を示す教員が少数ながらいないわけではありません。しかし、「学生による授業評価」調査は、こうした現状を受け止めつつ継続していくことに意義があると考えています。そして何よりも、授業評価の効果を把握し、メタ評価¹を実行しなくてはならないと思います。なぜなら授業評価に限らず評価一般について、それが適切に機能するよう維持していくためにはメタ評価が必須となるからです。

また、組織的改善の程度を向上させるには、今後も調査項目を定期的に検討する必要があることは言うまでもありません。さらに、調査結果を授業改善に結びつける方策についても、議論を深めていかなければなりません。そうした地道な努力と、他の様々な自己点検・評価との連携体制の構築により、授業評価はこれまで以上に、教育改善のためのツールとして重要な役割を果たすことができると思っております。今後も、こうした授業評価の取組に対する一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

総合教育センター長・副学長 藤井 保

¹ 一連の評価から評価結果を集計することを意図した評価に対して使われる。また、評価の質の判断及び（又は）評価実施者の実績（パフォーマンス）を査定するための、評価の評価という意味で使われる。経済協力開発機構 開発援助委員会（OECD-DAC）援助評価作業部会編 2003、『評価と援助の有効性 評価および結果重視マネジメントにおける基本用語集』13 頁より。

<http://www.jbic.go.jp/japanese/oec/pdf/term.pdf>参照。

I 調査の目的と方法

1. 調査の目的と意義

「学生による授業評価」調査の目的は、その実施について教員各位宛の「依頼文」で周知しているように、「この調査は、専ら、授業担当教員並びに大学が授業の実施状況を点検・評価し、その改善に資するための基礎資料を得るために実施するものであり、人事管理を目的として実施するものではありません。」に尽きる。基本的には、学生の意見や要望を踏まえて、各教員レベルの授業改善に向けた取組と努力を通じ、組織全体の教育改善と大学教育の質の向上を図ることである。すなわち、学生が自由記述も含めて、担当教員の授業内容や授業方法に対する評価を提供し、個々の教員がそれに基づき内容や方法の点で授業を自己評価し、授業改善のために努力することが主軸とされている。したがって、内容・方法に関する質問項目が多数となり、目的の中で大きな位置を占めている。授業の内容が、わかりやすく説明されたか否かといった点や、難易度や進み具合、補助教材の効果等、かなり具体的で多岐にわたっている。これらの視点をさらに広く捉えるならば、アンケート調査を継続して実施することにより、教育システムの改善やカリキュラム改革のために活用することも、目的の1つと言える。また、教育環境の整備のために活用することも目的である。たとえば、教員の声や話し方の聞き取りやすさ、教室の大きさと受講生の数との関係、板書や視聴覚機材が効果的に活用できているかどうかを問う質問が、それに該当する。

さらに、副次的ではあるが、学生に自らの授業への取組、授業への出席状況や授業中の態度を含めて自己省察する機会を提供することも、本調査の目的である。授業評価アンケートは、大学としての教育力の向上を目的としているので、学生の自覚を促すことこそ大きなポイントとなる。

このように、目的が重層的であるだけに、一朝一夕に全ての課題の改善・実現は不可能で、繰り返し継続して実施することに意義がある。平成18年度前期に実施した「学生による授業評価」の報告書にも記載した本学における授業評価アンケートの具体的目的を、ここに再掲する。

- ① 教員が自らの授業改善のための資料を得る。
- ② 学生の学習姿勢を知るための資料とする。
- ③ 学生の授業への期待のありかを知るための資料を得る。
- ④ 学生に授業履修への積極性と責任意識を喚起する。
- ⑤ 学部・学科の授業時間割、およびカリキュラムの有効性を検討するための資料を得る。
- ⑥ 大学としての教育力向上に必要な方策を立てるための資料を得る。

前述したように、「学生による授業評価」調査は、授業の改善を目的とし、授業を受けた学生に、その授業についての率直な意見を求めるものである。学生がその目的をきちんと理解し、積極的かつ真摯に質問に応じて初めて情報源として有効になる。したがって、個別科目の授業改善のみならず、大学全体の教育改革に学生の要望や意見が反映されること、さらに、大学や教員は学生からの「声」を重く受け止めているとすることを、折に触れて学生に発信していかなければならない。

2. 調査の実施概要

(1) 実施期間

前期：平成 19 年 7 月 17 日～8 月 9 日

後期：平成 20 年 1 月 21 日～2 月 1 日

なお、早期終了科目、集中講義科目については担当教員が最終日に近い日程を設定した。後期については、補講日（2 月 12 日～14 日）での実施を可とした。

(2) 対象科目

県立広島大学における平成 19 年度前期および後期開講の全授業科目とした。ただし、「学外実習科目」、「卒業論文」については除外した。また、受講者数が 5 名未満で極端に少ない授業科目については、担当教員の判断で対象科目から除外することができることとした。

(3) 調査項目

本調査では、これまでの調査との継続性に留意しつつ、質問項目の見直しを行うという基本方針の下で、平成 19 年度第 1 回高等教育推進部門会議における審議を経て、①学生の負担を考慮し項目数を減らす、②担当教員による個別質問の追加を可能にすることとした。すなわち、所属等の属性のほか、質問項目は、(A) 学生自身について (2 項目)、(B) 授業と教員について (10 項目)、(C) 担当教員による追加項目 (3 項目)、(D) 自由記述の 4 区分で構成した。また、調査用紙は、講義・演習科目用と、実験・実習・実技科目用の 2 種類を設定し、全授業科目に共通する質問は 7 問、講義・演習用と実験・実習・実技用の何れかに固有の質問は 5 問、合わせて各 12 問で構成した。回答は 4 段階評価方式 (4: 強くそう思う, 3: そう思う, 2: そう思わない, 1: 全くそう思わない) とした。質問 1 については別途選択肢を設けた。また、調査方法は無記名方式とした。

(4) 学生への依頼

調査方法等を全学生に周知し、学生の協力を得るため、事前に依頼文を各キャンパ

スで掲示するなどした。

(5) 配布および回収方法

調査の実施に当たっては、授業担当教員が調査用紙を配布し、その回収と教学課への提出は、若干名の学生を指名し、依頼した。配布後は、学生が教員の目を気にせずに回答できる雰囲気を醸成するため、教員は速やかに退出することとした。

(6) 実施状況

平成19年度県立広島大学の在学生は、1, 2, 3年生合わせて1,796名であった。

県立広島大学における調査の実施状況は、表1-1, 1-2の通りであった。

表1-1 平成19年度(前期) 学科別履修登録者数

学部	人間文化		経営情報		生命環境		保健福祉					全学
学科	国際文化	健康科学	経営	経営情報	生命科学	環境科学	看護	理学療法	作業療法	コミュニケーション障害	人間福祉	
履修登録者数	3,576	1,610	2,549	1,928	5,700	3,015	2,682	1,613	1,569	886	1,098	26,226
回答者数	3,143	1,456	2,143	1,738	3,915	2,100	1,969	1,307	1,322	860	975	20,928
回収率(%)	87.9	90.4	84.1	90.1	68.7	69.7	73.4	81.0	84.3	97.1	88.8	79.8

注1)履修登録者数は延べ人数。表1-2も同様。

表1-2 平成19年度(後期) 学科別履修登録者数

学部	人間文化		経営情報		生命環境		保健福祉					全学
学科	国際文化	健康科学	経営	経営情報	生命科学	環境科学	看護	理学療法	作業療法	コミュニケーション障害	人間福祉	
履修登録者数	3,375	1,506	2,517	1,732	3,921	1,926	2,056	1,374	1,369	1,355	1,429	22,560
回答者数	2,594	1,224	1,551	1,090	3,047	1,448	1,561	1,052	1,202	1,301	1,186	17,256
回収率(%)	76.9	81.3	61.6	62.9	77.7	75.2	75.9	76.6	87.8	96.0	83.0	76.5

表1-1, 1-2の履修登録者数は、指定期間に登録を完了し、その後の変更手続きがなかった者の総数で、学期の途中で授業を放棄した者を減じていない。このため、真の回答率は表の数値より高いことが予想される。

なお、実施上の諸作業のうち調査用紙の印刷、授業科目担当教員別調査用紙の袋詰め、各キャンパスへの納品と回収、単純集計作業(学部・学科単位の集計を含む)は外部委託した。また、授業科目のデータベース作成、ならびに調査の実施手続き、回収作業等の一部については、各キャンパス教学課の協力を得て業務の円滑な実施を図った。

3. 調査結果の集計とフィードバック

(1) 提供データ（集計表等）

担当教員には、調査を実施した各科目に対して、次の2種類のデータをフィードバックした。集計表には、当該科目のグループ²集計上の位置づけ（集計単位）、すなわち全学共通教育科目と専門教育科目の別、並びに講義・演習科目と実験・実習・実技科目の別を明記した。

- ① 集計表担当科目コード、科目名、担当者名、履修登録者数、回答者数、回答率等が記載された集計結果（項目別評価回答者数、平均値、グループ平均値、標準偏差、項目別平均値の棒グラフ、グループ平均値の棒グラフ等のデータを含む。）
- ② 学生による自由記述（問：この授業で良かった点、改善すべき点などがあれば記入してください。）一覧

高等教育推進部門会議委員には、学部もしくは学科別に集計した全学共通教育科目と専門科目（講義・演習科目か実験・実習・実技科目の区別を明記。）の集計結果を送付した。

(2) 集計単位別結果報告に係わる総括コメントの作成

この分担については、高等教育推進部門会議において審議し、全学集計、人間文化学部国際文化学科、同健康科学科、経営情報学部経営学科、同経営情報学科、生命環境学部生命科学科、同環境科学科、保健福祉学部看護学科、同理学療法学科、同作業療法学科、同コミュニケーション障害学科、同人間福祉学科における専門科目、全学共通教育科目、教職に関する科目、それぞれの集計単位別に作成することを決定した。

全学集計に関する総括は、総合教育センターが担当した。また、学部・学科別等の集計結果については、授業科目担当者から提出されたコメント等（①集計結果と自由記述について、②昨年度の結果と比較して、③今後の改善点について）をもとに、専門科目については各学部の高等教育推進部門会議委員が、全学共通教育科目については全学共通教育部門長が、さらに教職に関する科目については教職課程担当主任が、総括報告の執筆を担当した。なお、非常勤講師に対しては担当科目の集計表等を送付するにとどめ、コメントの作成は求めなかった。

²平成19年度前期および後期開講の県立広島大学教育課程のうち、「学生による授業評価」調査を実施したすべての全学共通教育（講義・演習、または実験・実習・実技）科目、専門（講義・演習、または実験・実習・実技）科目、教職科目を指す。

Ⅱ 集計単位別結果と総評

全学集計

1. 分析の概要

(1) 分析の対象

全学集計の分析に当たっては、全授業科目を、全学共通教育（講義・演習）科目、全学共通教育（実験・実習・実技）科目、専門（講義・演習）科目、専門（実験・実習・実技）科目、教職（講義・演習）科目の5群に分けた。表2に示した延べ回答者数（前期：20,928名、後期：17,256名）の回答数を科目群別に分析対象とした。クロス集計の統計的検定法は、ピアソンのカイ二乗検定を用いた。

表2 回答数の内訳

科目群	回答数	
	前期	後期
全学共通教育(講義・演習)科目	6,885	4,702
全学共通教育(実験・実習・実技)科目	328	154
専門(講義・演習)科目	12,521	10,529
専門(実験・実習・実技)科目	807	1,464
教職(講義・演習)科目	387	407
全学	20,928	17,256

(2) 基本的分析

基本的データとして、項目別の回答数、最小値、最大値、平均値および標準偏差を科目群ごとに算出し、本項の末尾（24頁～32頁参照、表11-1～表15-2）に示した。

(3) 項目間の関連

質問項目別の回答間に関連性があるか否かを検討するため、各質問項目でピアソンの相関係数を算出し、無相関の検定を行った。

2. 結果と考察

(1) 学生の自己評価

初めに学生の受講態度の一端を出席状況に見てみる。

問.「あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。」

表 3-1, 3-2 に学生の出席状況を示した。出席率は高く、学生は概ね授業に積極的に参加している。特に授業形態上、専門の中でも実験・実習・実技科目は課題解決型学習であり、積み上げ方式の内容であることが多いためか、前期、後期とも 95%以上の学生が 9 割以上の授業に出席している。これに対して、全学共通教育の講義・演習科目が示す数値（前期：82.1%，後期：74.3%）は決して悪いとは言えないが、有意に下回っていた。他の科目群との差異が生じた原因は何であろうか。少人数の専門科目とは異なり、受講者数が多いからであろうか。学生の自由記述を含めて探る必要がある。

表3-1 授業出席状況（前期）

科目群	10～9割	8～7割	6～5割	5割未満	全学(人)
全学共通教育(講義・演習)科目	82.1	15.3	2.0	0.6	6,885
全学共通教育(実験・実習・実技)科目	89.3	10.1	0.3	0.3	328
専門(講義・演習)科目	83.0	15.2	1.5	0.3	12,521
専門(実験・実習・実技)科目	95.8	4.2	0.0	0.0	807
教職(講義・演習)科目	86.8	12.9	0.3	0.0	387
全学	83.5%	14.6%	1.6%	0.4%	20,928人

P<.001

表3-2 授業出席状況（後期）

科目群	10～9割	8～7割	6～5割	5割未満	全学(人)
全学共通教育(講義・演習)科目	74.3	22.2	2.5	0.9	4,681
専門(講義・演習)科目	79.3	18.9	1.5	0.3	10,480
専門(実験・実習・実技)科目	95.3	4.5	0.1	0.1	1,611
教職(講義・演習)科目	81.8	17.0	1.2	0.0	406
全学	79.5%	18.4%	1.6%	0.5%	17,178人

P<.001

教職科目の出席状況も前期 86.8%，後期 81.8%の学生がほとんど毎回授業に出席しており、専門（講義・演習）科目以上に良好であった。なお、本学で教員免許の取得が可能な学部・学科は、人間文化学部国際文化学科（中学1種の英語・国語・社会教科ならびに高校1種の英語・国語・地理歴史・公民教科）、経営情報学部経営学科（高校1種の商業・公民教科、）同学部経営情報学科（高校1種の情報教科）、生命環境学部（中学1種並びに高校1種の理科教科）となっている。

問.「あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。」

表 4-1, 4-2 に学生の学習意欲の結果を示した。

表4-1 学習意欲（前期）

科目群	強くそう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	全学(人)
全学共通教育(講義・演習)科目	34.3	52.5	11.4	1.7	6,885
全学共通教育(実験・実習・実技)科目	64.9	33.2	1.2	0.6	328
専門(講義・演習)科目	34.3	52.8	11.4	1.6	12,521
専門(実験・実習・実技)科目	50.3	45.6	3.7	0.4	807
教職(講義・演習)科目	41.4	46.9	9.4	2.3	387
全学	35.5%	52.2%	10.8%	1.6%	20,928人

P<.001

表4-2 学習意欲（後期）

科目群	強くそう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	全学(人)
全学共通教育(講義・演習)科目	35.5	53.5	9.1	2.0	4,668
専門(講義・演習)科目	37.9	53.0	8.1	1.0	10,451
専門(実験・実習・実技)科目	57.0	40.5	1.9	0.6	1,608
教職(講義・演習)科目	37.9	53.2	8.1	0.7	406
全学	39.1%	52.0%	7.8%	1.2%	17,133人

P<.001

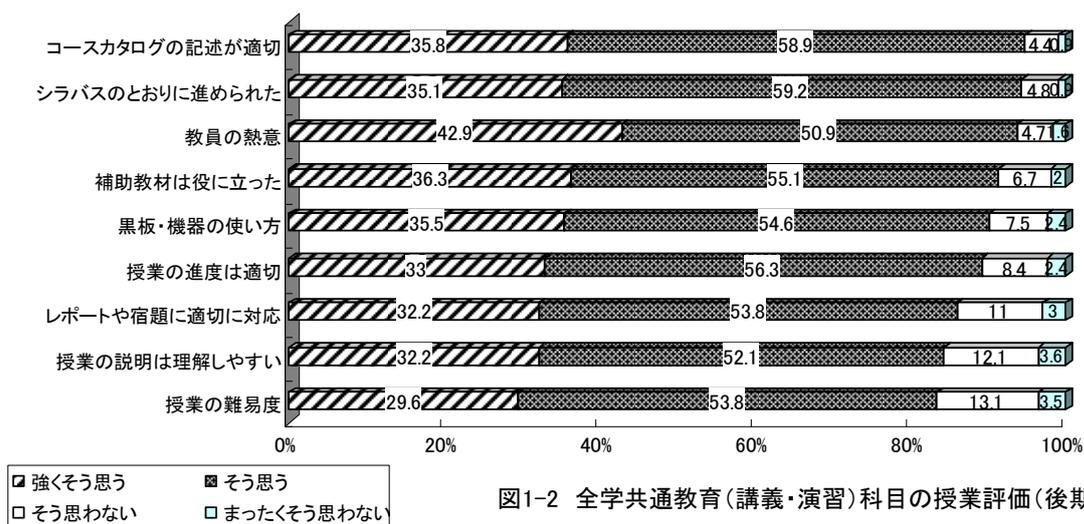
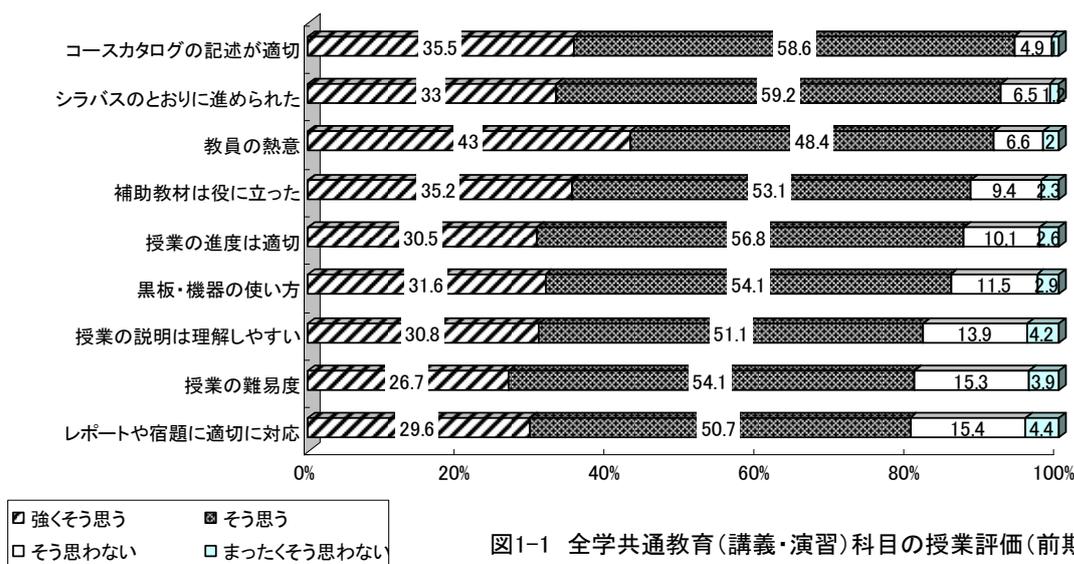
全学で比較すると「強くそう思う」と「そう思う」を加えると、前期は87.7%、後期は91.1%の学生が授業に意欲的に取り組んでいると認識している。前期授業の習得をふまえ、後期にますます学習意欲を高めているものと理解できる。出席率にせよ、学習意欲にせよ、こうした本学学生の学ぶ姿勢に応えるような授業を提供していくことが、教員には求められている。

以上、本学の学生の学習態度について概観した結果、僅かな質問項目からとはいえ、まじめに学業に取り組もうとしている学生の姿勢をうかがうことができた。では、担当教員の授業内容、方法に対する学生の評価はどうであろうか。以下では、全学共通教育科目、専門（講義・演習）科目、専門（実験・実習・実技）科目、教職科目について、それぞれの授業評価を検討する。

（2）全学共通教育科目の評価

全学共通教育科目は、基幹科目、複合科目、フレッシュマンセミナー、外国語科目、情報科目、保健体育科目に区分され（ただし、人間文化学部国際文化学科では外国語科目を、健康科学科では情報科目と保健体育科目を専門科目として開講している。また、国際文化学科では学科基礎教養として5つの授業科目とフレッシュマンセミナー「基礎ゼミ」Ⅱを別途開設している。）、教養的教育として全学的に実施されている。全学共通教育科目の評価を、肯定的回答が多い項目の順に、図1-1、1-2に示した。

「コースカタログ（授業案内）の記述が適切」（前期：94.1%，後期：94.7%；「強く思う」と「思う」の比率の和，以下同様。）「シラバス（授業概要）との一致」（前期：92.2%，後期：94.3%），「教員の熱意」（前期：91.4%，後期：93.8%）等の評価が高く，いずれも90%以上を示している。他もすべて80%以上の肯定的評価を得ている。教員が学生のための配布資料や授業の進捗状況を考慮していることがうかがえる。専門科目に比べて全学共通教育科目では受講生が多いため，大講義室を使う頻度が高い。こうした教育環境に即した教材の提供・準備等，教員の教育的配慮が評価に現れたものと考えられる。



しかし，前期19.2%，後期16.6%の学生は，「授業が難しすぎてついて行くのが困難」，あるいは「易しすぎてもの足りない」の，いずれかを感じているようである。学生の成長・

発達に対応したカリキュラムの構築等に関しては、様々な議論や問題点が指摘されている³が、複数の学部・学科に同時開講されている授業の場合は、受講学生の特性や習熟度、学習態度等に差異があるほど、授業に工夫を加える必要がある。全学共通教育科目を専門科目と有機的に連携させるためにも、この点を最も考慮しなければならない。その意味で担当教員が受講生にミニツツペーパーを実施したり、授業の感想を書かせることなどは、学生の理解度を知る有効な手だてとなる。同時に授業の難易度を調節し、学期の途中でシラバスの修正を行うことにつながる。

(3) 専門（講義・演習）科目の授業評価

図 2-1, 2-2 に、専門（講義・演習）科目の評価を、肯定的回答が多い項目の順に示した。

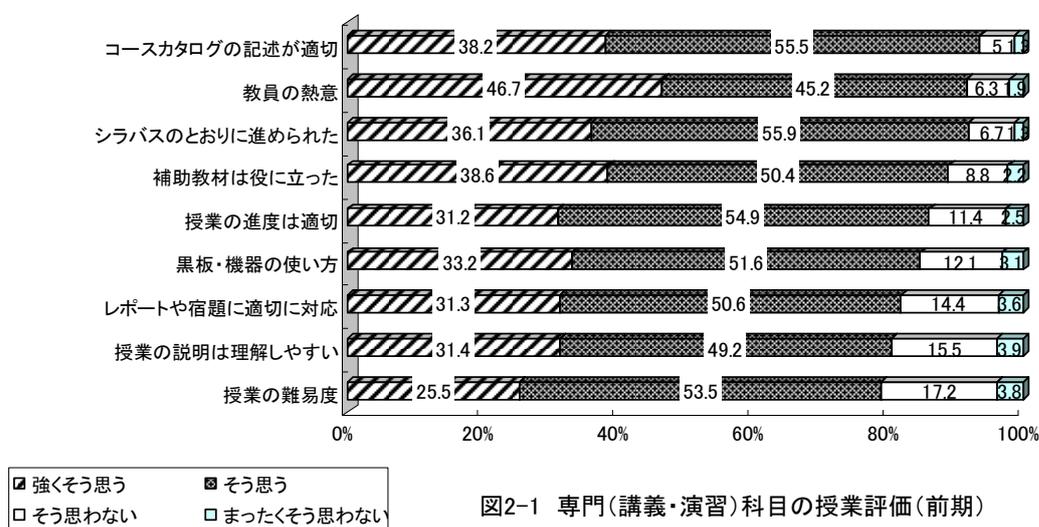


図2-1 専門(講義・演習)科目の授業評価(前期)

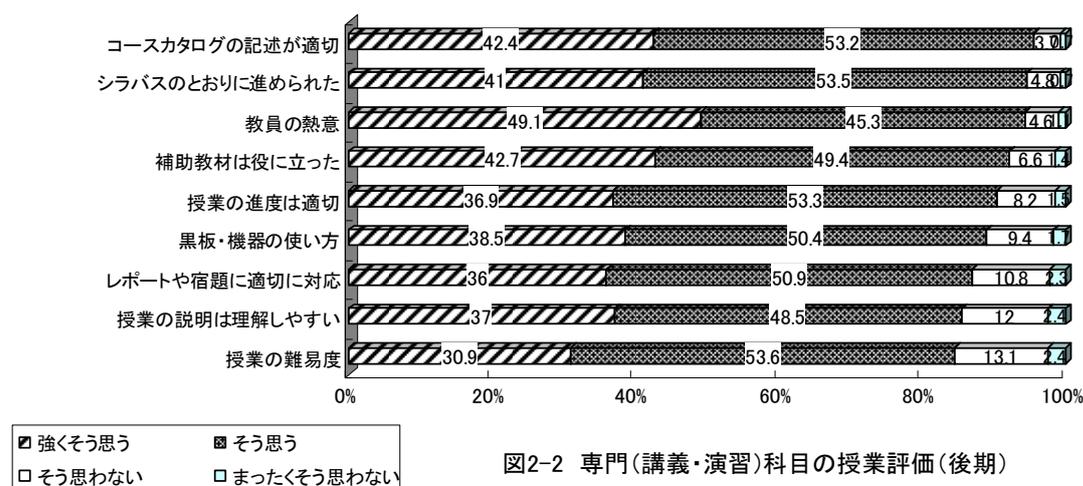


図2-2 専門(講義・演習)科目の授業評価(後期)

³ 有本 章編 2003, 『大学のカリキュラム改革』 玉川大学出版部。

前期科目においては「強くそう思う」の比率が、後期のそれに比べてすべて低いことがわかる。「教員の熱意」(46.7%)はともかく、高等学校卒業後、はじめて大学教育を受ける学生にとってはこれまでの学校教育の授業形態とは全く異なる未知の世界であることを教員は意識しておく必要がある。授業時間の長さ、教科書の使用について、レポート課題の書き方、教員の授業方法等の一つひとつが学生にとっては初体験である。教員が詳しい説明と指示を与えることで高等学校での学習を大学での学びにスムーズに移行できることになる。教員はこうした「てま」を省略するわけにはいかない。高等学校での学習暦の多様化やカリキュラムの選択幅も拡大している。学生の反応を観察しつつ教員本位ではなく学生(学習者)本位の授業設計の実現が求められる。

大学の講義というものは、毎授業時間中に明解な答が出てくるといったものは極めて少なく、とりわけ人文学や社会科学の分野では、15回分の授業の中でしだいに本質的な理解が深まるような組立てがなされている。あるいは問題の所在が明らかになるように設計されている。教員はそのプロセスを、一步一步時間をかけてまとめ上げているはずである。しかし、授業の初期の段階でつまづいた学生にとっては、授業内容の理解や習熟が困難になってしまう事態にもなりかねない。かたや専門性の高い授業を強く志向する学生にとっては、易しすぎる内容は、興味を損ねてしまうことになりかねない。どのレベルの学生に授業の内容を合わせるかは難しい課題である。

(4) 専門(実験・実習・実技)科目の授業評価

図3-1, 3-2に、専門(実験・実習・実技)科目の評価を、肯定的回答が多かった順に示した。

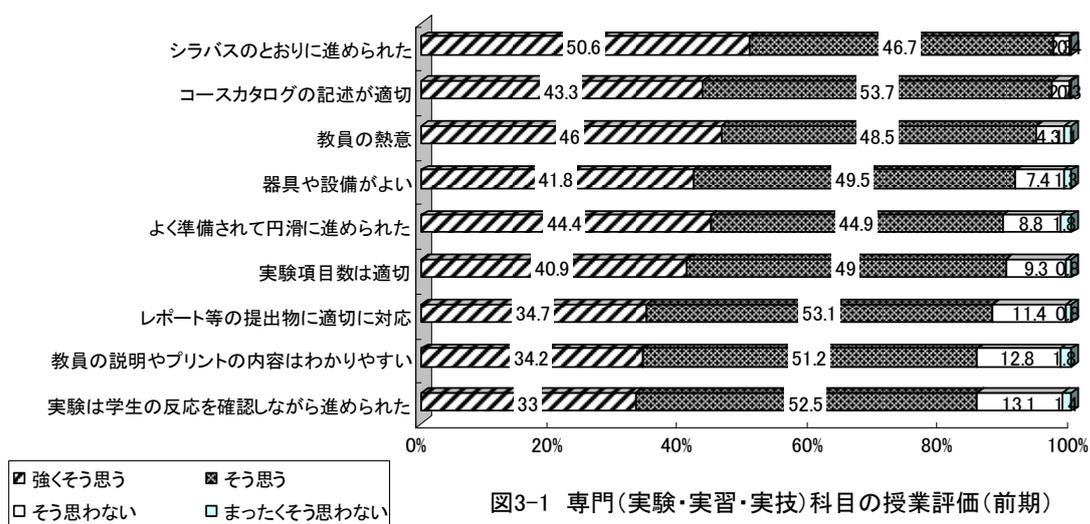


図3-1 専門(実験・実習・実技)科目の授業評価(前期)

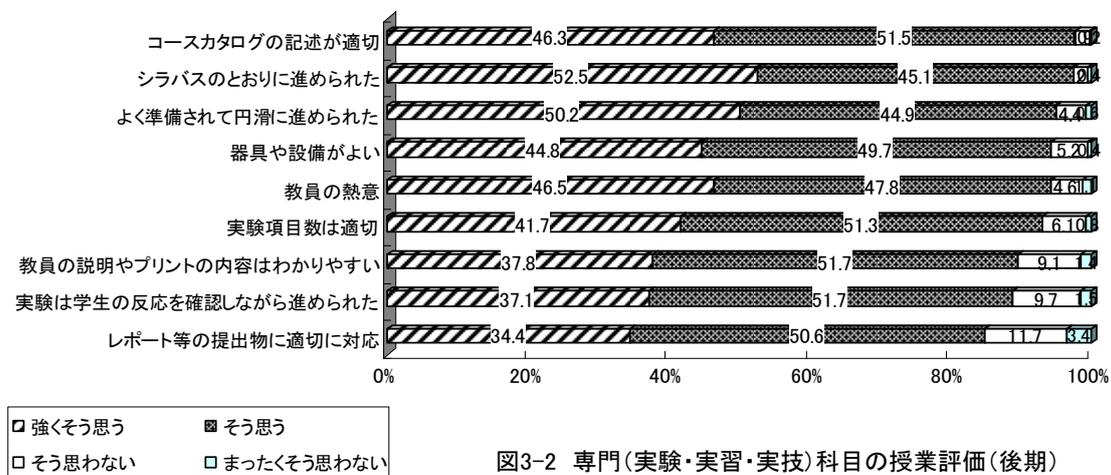


図3-2 専門(実験・実習・実技)科目の授業評価(後期)

実験・実習・実技科目は、全学共通教育科目や専門（講義・演習）科目よりも概ね肯定的評価の割合が高い傾向が認められた。

前期は9項目中4項目で、後期は9項目中6項目で肯定的な評価が90%以上であった。授業に関する周到的な準備等により、量的にも無理のない安全性に留意した実験・実習・実技が実施されていることがわかる。この結果から実験・実習・実技関連の授業は概ね効果的に実施されているとみなすことができる。ただ、気がかりな点は、「実験は学生の反応を確認しながら進められた」の肯定的評価（前期：85.5%，後期：88.8%）である。

今回の専門（実験・実習・実技）科目の授業評価は、すべての授業が少人数で実験装置もある程度整い、助手等のサポート体制の中で実施されたわけではなく、中には学生にとって十分な授業環境とは言えないケースがあったかもしれない。限られた予算の中でできるだけ教育効果を上げるためには、学生のチームワークや協調性、あるいは機転とか、応用面の能力を培っていくことも重要であろう。進捗状況を常に把握しながら授業を進める教員のゆとりが求められてくる。

（5）教職（講義・演習）科目の授業評価

図4-1、4-2に、教職（講義・演習）科目の評価を、肯定的回答が多かった順に示した。教職（講義・演習）科目の授業評価は「教員の熱意」の高さに端的に表れている。すなわち、前期の「強く思う」の比率59.7%は、全ての科目群の中で最高の評価値であり、後期も46.4%と高い水準を維持している。前回平成18年度前期の「熱意」評価結果32.4%と比較すれば、担当教員の一人ひとりが自己評価した結果、大幅に改善された証左と捉えることができる。また、他の項目すべてにわたって前回調査を上回る評価結果であったことは特筆すべき点である。もっとも、改善されたと思われる前期の評価結果に比べると、後期は「強く思う」の比率がいささか下がっている。その原因については本調査から

は判断できない。担当教員のコメントから手がかりが得られるかもしれない。

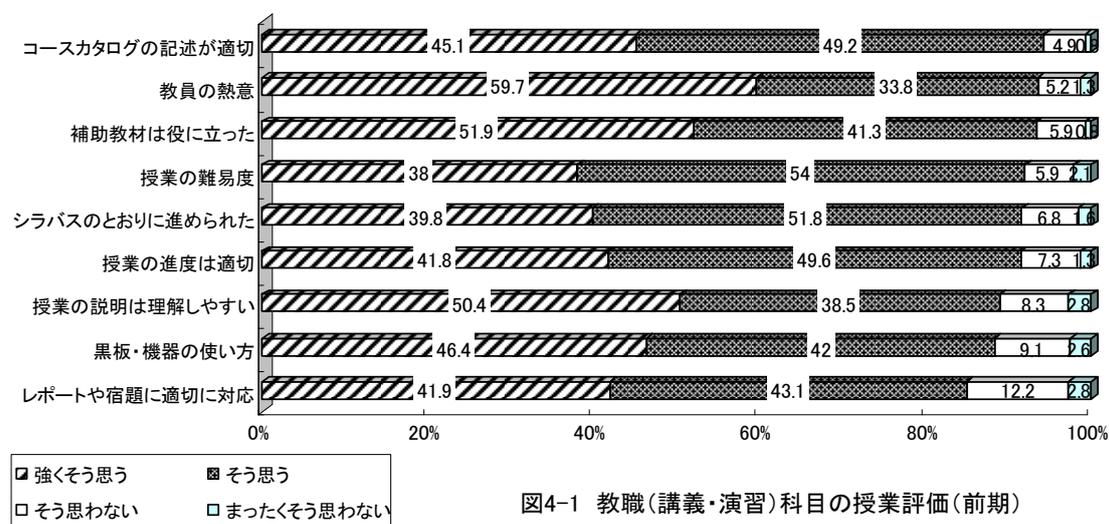


図4-1 教職(講義・演習)科目の授業評価(前期)

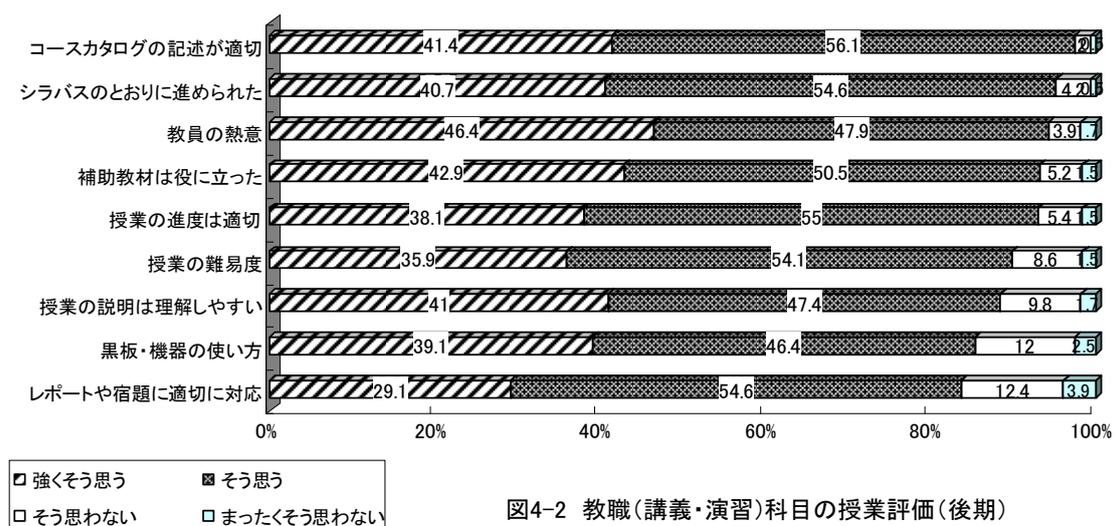


図4-2 教職(講義・演習)科目の授業評価(後期)

(6) 授業の総合的評価

調査項目のうち、「総合的に判断してこの授業に満足していますか」の項目は、授業の総合的評価とみなすことができる。そこで、この項目について、全学共通教育科目、および専門(講義・演習)科目、専門(実験・実習・実技)科目、教職科目の4群の集計結果の比較を試みた。表5-1、5-2に総合的満足度を示した。

「強くそう思う」と「そう思う」を加えた肯定的評価の割合は、前期が85.7%、後期が89.6%で上昇傾向にあり、担当教員が授業評価を参考に真面目に授業の改善に取り組んでいることがわかる。とくに59.6%の受講生が「強くそう思う」と答えている全学共通教育(実験・実習・実技)科目は「体育実技」を指しており、3キャンパスの当該科目担当教員が

いかに学生とコミュニケーションを図り、授業改善を継続しているかが理解できる。本学がこれまで実施してきた授業評価の総合的満足度の評価を改めて時系列に比較すれば、平成17年度後期は80.3%、平成18年度前期は83.0%、平成19年度前期は85.7%、同じく後期は89.6%と、調査ごとに上昇していることがわかる。この数値をもってすれば、本学の教員は授業評価に基づき、改善をしていると言えよう。

ただし、「満足度」は様々な要素が複合的に組み合わさった結果に対する評価である。また、担当教員は諸事情によりやむなく授業レベルを下げている場合もあろう。教育課程上の位置づけの違い等も考慮すると、結果の差は必ずしも授業の質や完成度を反映したものではない。いずれにしても、「わかりやすく興味深く、しかも知的な刺激を受ける」授業を、90分の中にいかに構成・展開するかは、学生との真剣勝負であるといっても過言ではない。

表5-1 総合的満足度（前期）

科目群	強くそう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	全学(人)
全学共通教育(講義・演習)科目	32.7	52.5	10.9	3.9	6,885
全学共通教育(実験・実習・実技)科目	59.6	36.7	2.5	1.2	328
専門(講義・演習)科目	33.9	51.5	11.1	3.5	12,521
専門(実験・実習・実技)科目	39.7	50.7	7.9	1.7	807
教職(講義・演習)科目	47.6	42.4	7.3	2.6	387
全学	34.1%	51.6%	10.8%	3.5%	20,928人

P<.001

表5-2 総合的満足度（後期）

科目群	強くそう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	全学(人)
全学共通教育(講義・演習)科目	33.2	55.3	8.4	3.1	4,627
専門(講義・演習)科目	39.0	50.5	8.5	2.1	10,340
専門(実験・実習・実技)科目	42.6	50.8	5.7	0.9	1,599
教職(講義・演習)科目	35.9	54.3	7.5	2.3	398
全学	37.7%	51.9%	8.2%	2.2%	16,964人

P<.001

(7) 項目間の相関⁴

各質問項目の間でどの程度の関連性があるのか、その関連の強さを、講義・演習科目と

⁴ a および b という項目があった場合、a に 1（低い評価）を付けた人が、皆 b にも 1（低い評価）を付ければ、相関は強くなる。二つの項目の数値が同じ傾向の動きをするほど相関は強くなる。全く同じ動きであれば、相関係数は 1.0 となり、真逆の動き（一方に 1 を付けた人はもう一方に 4 を付ける）をすれば、-1.0 となる。全くバラバラであれば、相関係数は 0.0 となる。

実験・実習・実技科目の別に、表 6-1～10-2 に示した。表中の数値は、関連の強弱を示す相関係数である。比較的強い相関を示していると言える係数値（0.60 以上）に網掛けを付した。同計数値が最も高く算出された項目対は、講義・演習科目も、実験・実習・実技科目も「コースカタログ」(B-3)と「シラバス」(B-4)との間で全学共通教育（講義・演習）科目は前期：0.76，後期：0.81，全学共通教育（実験・実習・実技）科目は前期：0.79，専門（講義・演習）科目は前期：0.75，後期：0.78，専門（実験・実習・実技）科目は前：0.67，後期：0.64，教職（講義・演習）科目は前期 0.73，後期 0.80 であった。

表6-1 全学共通教育(講義・演習)科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (前期)

項目	0.6以上の比較的強い相関(表6-2～10-2も同様)											
	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.32	1.00										
B-3	0.20	0.40	1.00									
B-4	0.15	0.36	0.76	1.00								
B-5	0.11	0.45	0.51	0.53	1.00							
B-6	0.11	0.41	0.46	0.47	0.73	1.00						
B-7	0.14	0.41	0.52	0.54	0.65	0.59	1.00					
B-8	0.14	0.36	0.50	0.51	0.62	0.56	0.65	1.00				
B-9	0.11	0.40	0.52	0.52	0.69	0.71	0.61	0.62	1.00			
B-10	0.13	0.36	0.53	0.53	0.60	0.51	0.58	0.58	0.59	1.00		
B-11	0.14	0.40	0.49	0.48	0.59	0.54	0.59	0.55	0.57	0.58	1.00	
C-12	0.13	0.49	0.52	0.53	0.74	0.68	0.64	0.63	0.70	0.65	0.64	1.00

N=6,885 P<.01

<講義・演習科目の項目対応表>(表8,10も同様)

A	1	授業出席状況
	2	学習意欲
B	3	コースカタログの記述が適切
	4	シラバスの通りに進められた
	5	授業の説明は理解しやすい
	6	授業の難易度
	7	黒板・機器の使い方
	8	補助教材は役に立った
	9	教員の熱意
	10	授業の進度は適切
	11	レポートや宿題に適切に対応
	C	12

注)A: 学生自身の自己評価, B: 授業内容・方法の評価, C: 全般的評価

表6-2 全学共通教育(講義・演習)科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (後期)

項目	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.40	1.00										
B-3	0.21	0.42	1.00									
B-4	0.18	0.40	0.81	1.00								
B-5	0.15	0.46	0.56	0.57	1.00							
B-6	0.13	0.46	0.54	0.54	0.77	1.00						
B-7	0.19	0.40	0.62	0.62	0.70	0.67	1.00					
B-8	0.17	0.41	0.62	0.63	0.68	0.65	0.73	1.00				
B-9	0.14	0.44	0.60	0.60	0.73	0.76	0.68	0.71	1.00			
B-10	0.20	0.41	0.60	0.60	0.63	0.59	0.66	0.65	0.65	1.00		
B-11	0.15	0.43	0.58	0.56	0.63	0.60	0.63	0.61	0.63	0.63	1.00	
C-12	0.15	0.49	0.59	0.60	0.74	0.73	0.69	0.71	0.73	0.69	0.70	1.00

N=4,702 P<.01

表7 全学共通教育(実験・実習・実技)科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (前期)

項目	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.42	1.00										
B-3	0.07	0.44**	1.00									
B-4	0.05	0.42**	0.79**	1.00								
B-5	0.09	0.41**	0.69**	0.71**	1.00							
B-6	0.08	0.4**	0.70**	0.71**	0.78**	1.00						
B-7	0.02	0.37**	0.71**	0.67**	0.77**	0.74**	1.00					
B-8	0.07	0.46**	0.74**	0.75**	0.75**	0.75**	0.77**	1.00				
B-9	0.08	0.38**	0.72**	0.70**	0.66**	0.74**	0.71**	0.76**	1.00			
B-10	0.09	0.30**	0.62**	0.64**	0.63**	0.59**	0.65**	0.64**	0.68**	1.00		
B-11	0.13*	0.43**	0.61**	0.57**	0.65**	0.66**	0.66**	0.64**	0.71**	0.56**	1.00	
C-12	0.12*	0.45**	0.58**	0.55**	0.64**	0.59**	0.59**	0.69**	0.64**	0.58**	0.59**	1.00

N=328 *:P<.05, **:P<.01

<実験・実習・実技科目の項目対応表>(表9も同様)

A	1	授業出席状況
	2	学習意欲
B	3	コースカタログの記述が適切
	4	シラバス通り進められた
	5	よく準備されて円滑に進められた
	6	器具や設備がよい
	7	教員の説明やプリントの内容はわかりやすい
	8	実験項目数は適切
	9	実験は学生の反応を確認しながら進められた
	10	レポート等の提出物には適切に対応してくれる
	11	教員の熱意
C	12	総合的満足度

注)A: 学生自身の自己評価, B: 授業内容・方法の評価, C: 全般的評価

表8-1 専門(講義・演習)科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (前期)

項目	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.30	1.00										
B-3	0.14	0.39	1.00									
B-4	0.12	0.37	0.75	1.00								
B-5	0.10	0.45	0.53	0.54	1.00							
B-6	0.10	0.41	0.46	0.46	0.72	1.00						
B-7	0.10	0.39	0.51	0.52	0.65	0.59	1.00					
B-8	0.13	0.39	0.52	0.53	0.64	0.57	0.67	1.00				
B-9	0.10	0.38	0.51	0.52	0.65	0.68	0.60	0.62	1.00			
B-10	0.12	0.36	0.51	0.51	0.58	0.48	0.56	0.58	0.56	1.00		
B-11	0.09	0.39	0.52	0.52	0.58	0.53	0.56	0.58	0.56	0.58	1.00	
C-12	0.12	0.49	0.55	0.55	0.74	0.66	0.66	0.66	0.68	0.64	0.66	1.00

N=12,521 P<.01

表8-2 専門(講義・演習)科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (後期)

項目	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.33	1.00										
B-3	0.19	0.44	1.00									
B-4	0.17	0.41	0.78	1.00								
B-5	0.11	0.45	0.55	0.56	1.00							
B-6	0.11	0.41	0.50	0.50	0.73	1.00						
B-7	0.13	0.42	0.56	0.57	0.66	0.61	1.00					
B-8	0.15	0.41	0.56	0.57	0.66	0.60	0.73	1.00				
B-9	0.12	0.41	0.56	0.57	0.68	0.72	0.64	0.67	1.00			
B-10	0.14	0.38	0.55	0.55	0.59	0.53	0.59	0.62	0.61	1.00		
B-11	0.14	0.42	0.54	0.54	0.60	0.55	0.59	0.60	0.60	0.61	1.00	
C-12	0.15	0.50	0.59	0.58	0.75	0.69	0.68	0.70	0.71	0.66	0.68	1.00

N=10,529 P<.01

表9-1 専門(実験・実習・実技)科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (前期)

項目	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.08*	1.00										
B-3	0.00	0.45**	1.00									
B-4	0.05	0.38**	0.67**	1.00								
B-5	0.04	0.39**	0.5**	0.57**	1.00							
B-6	0.02	0.27**	0.45**	0.49**	0.56**	1.00						
B-7	0.02	0.37**	0.44**	0.45**	0.56**	0.51**	1.00					
B-8	0.00	0.37**	0.52**	0.52**	0.57**	0.54**	0.61**	1.00				
B-9	0.03	0.34**	0.44**	0.43**	0.56**	0.50**	0.59**	0.62**	1.00			
B-10	0.03	0.4**	0.49**	0.48**	0.52**	0.48**	0.54**	0.54**	0.59**	1.00		
B-11	0.02	0.34**	0.46**	0.46**	0.54**	0.48**	0.48**	0.50**	0.50**	0.56**	1.00	
C-12	0.04	0.44**	0.49**	0.50**	0.61**	0.52**	0.64**	0.61**	0.69**	0.62**	0.60**	1.00

N=807 *:P<.05, **:P<.01

表9-2 専門(実験・実習・実技)科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (後期)

項目	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.21**	1.00										
B-3	0.13**	0.39**	1.00									
B-4	0.14**	0.35**	0.64**	1.00								
B-5	0.16**	0.35**	0.52**	0.56**	1.00							
B-6	0.12**	0.32**	0.45**	0.49**	0.59**	1.00						
B-7	0.10**	0.34**	0.45**	0.42**	0.53**	0.53**	1.00					
B-8	0.09**	0.33**	0.49**	0.51**	0.53**	0.56**	0.62**	1.00				
B-9	0.05	0.32**	0.48**	0.44**	0.54**	0.54**	0.65**	0.59**	1.00			
B-10	0.03	0.30**	0.41**	0.38**	0.44**	0.46**	0.57**	0.52**	0.64**	1.00		
B-11	0.09**	0.33**	0.45**	0.46**	0.52**	0.51**	0.55**	0.52**	0.62**	0.62**	1.00	
C-12	0.09**	0.39**	0.48**	0.47**	0.55**	0.54**	0.61**	0.63**	0.66**	0.63**	0.67**	1.00

N=1,618 *: $P<.05$, **: $P<.01$

表10-1 教職(講義・演習)科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (前期)

項目	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.05	1.00										
B-3	0.08	0.40**	1.00									
B-4	0.07	0.40**	0.73**	1.00								
B-5	0.13*	0.53**	0.59**	0.57**	1.00							
B-6	0.12*	0.42**	0.53**	0.47**	0.66**	1.00						
B-7	0.10	0.40**	0.54**	0.48**	0.68**	0.63**	1.00					
B-8	0.10	0.39**	0.54**	0.45**	0.64**	0.60**	0.69**	1.00				
B-9	0.07	0.42**	0.56**	0.49**	0.63**	0.67**	0.66**	0.66**	1.00			
B-10	0.12*	0.42**	0.53**	0.46**	0.67**	0.56**	0.50**	0.63**	0.66**	1.00		
B-11	0.10	0.51**	0.56**	0.49**	0.64**	0.59**	0.61**	0.64**	0.63**	0.60**	1.00	
C-12	0.12*	0.52**	0.61**	0.51**	0.76**	0.65**	0.69**	0.65**	0.67**	0.73**	0.72**	1.00

N=387 *: $P<.05$, **: $P<.01$

表10-2 教職(講義・演習)科目における項目間の相関<Pearsonの相関係数> (後期)

項目	A-1	A-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	C-12
A-1	1.00											
A-2	0.20	1.00										
B-3	0.12*	0.32**	1.00									
B-4	0.05	0.29**	0.80**	1.00								
B-5	0.01	0.36**	0.57**	0.57**	1.00							
B-6	-0.02	0.32**	0.53**	0.53**	0.71**	1.00						
B-7	0.01*	0.29**	0.48**	0.46**	0.60**	0.61**	1.00					
B-8	0.08	0.31**	0.05**	0.05**	0.62**	0.61**	0.67**	1.00				
B-9	-0.02	0.32**	0.06**	0.06**	0.07**	0.73**	0.64**	0.66**	1.00			
B-10	0.04	0.03**	0.51**	0.52**	0.65**	0.57**	0.56**	0.56**	0.61**	1.00		
B-11	0.00	0.37**	0.47**	0.49**	0.55**	0.59**	0.55**	0.55**	0.61**	0.56**	1.00	
C-12	0.07	0.47**	0.57**	0.57**	0.73**	0.68**	0.65**	0.66**	0.71**	0.65**	0.66**	1.00

N=407 *: $P<.05$ **: $P<.01$

3. 総 評

県立広島大学における平成 19 年度前期・後期開講科目を対象にした学生による授業評価結果から、本学における授業の実態を総括的に把握することができた。また、授業改善を要する課題がいくつか明らかになった。以下に、それらを、若干の考察を加えて列挙する。

- ① 前回の調査（平成 19 年度前期）に引き続き、高い授業出席率が示された。このことは、本調査の回収率の高さからもうかがえた。
- ② 本調査結果も、前回同様、全体的に良好なものであった。とりわけ専門の実験・実習・実技科目においては、すべての項目に対して 80%以上の高い肯定的評価が得られた。
- ③ 総合的に本学教員は、授業に熱意を持って臨んでいると評価されている。具体的には、標準的授業時間数が確保され、講義で使用する教科書やプリントなどの補助教材、あるいは、実験の準備等、教員の授業に対する積極的な姿勢が評価されたと考えられる。
- ④ コースカタログやシラバスの内容は適切で、信頼できる情報として評価されている。もっともその内容が、項目やキーワードを羅列しただけの簡単な記載の場合は、学生もそれなりの受け止め方をするであろう。しかし、本来授業は刺激と反応との相互作用によって創り上げられるものであるから、軌道修正されたシラバス（改訂版）の再配布等、教員にはきめ細かな対応が求められる。
- ⑤ 提出したレポートや課題のフィードバックが十分になされていない授業科目がわずかながらある。厳格な成績評価を全学的な目標として掲げている以上、提出物に対する判定基準や個別の評価結果の伝達等は必要条件であろう。フィードバックは、授業における双方向性の確保の観点からも、必要不可欠である。
- ⑥ 授業によっては、学生の理解度を超えるような内容のものもある。教育と研究の統合や、高い目標設定は教員のねらいとするところであるが、ここでも授業の内容や構成に無理がないか、学生の到達度と教員の期待値に齟齬が生じていないか、冷静に判断していかなければならない。そのヒントは、授業公開並びに他の教員のシラバスや授業参観などから得ることもできよう。
- ⑦ 全ての学生が授業から知的刺激を受け、学習意欲がさらに増進しているという状況には至っていない。最も困難な課題であり、たった 1つの評価項目で判断できるものではないが、学習意欲の喚起や動機づけは授業方法論と深く関わりをもっているため、これも教員相互の授業公開や参観により、良い刺激を受けて改善できる可能性がある。
- ⑧ 授業に対する満足度は絶対的基準でみれば高いと言える。学科の特性を尊重しつつ、評価を下げないための不断的努力（授業改善）を怠るわけにはいかない。一方で、学生からの満足度が受講時には得られなくても、高学年次や卒業後になって大変有益であったと思ひ起こす授業は大学には数多く存在する。卒業後に、授業の本来の意味を、学生

がようやく確認できる事例は少なからずある。こうした授業を正當に評価する視点も失ってはならない。

近年、大学は、法人評価や認証評価など、大学全体として外部評価を避けては通れない状況に置かれている。そのために授業評価を実施しなければならない、という理屈も成り立つ。その意味で、「学生による授業評価」の実施は、業績測定とそれに基づく管理という目的に適いやすい。実際、大学組織改革の要である教員人事評価の問題点について、解決の方向性を検討した研究もみられる⁵。また、業績の測定・管理と教育改善は必ずしも互いを排する関係にあるわけではない、とする議論もある⁶。

前述したように授業評価は、単に外部評価を受けるための資料としてではなく、授業改善の具体的な動きと即応させることこそ第一義である。そのためには、学期末ごとに集中的に実施されることによる学生の負担を考え、詳細な情報を得るために多様な項目を数多く設定することが、果たして適切かどうかを再考する必要がある。すなわち、授業改善に結びつく必要な情報をいかに的確で簡潔な内容（調査項目）で収集するかを、検討していかなければならない。特に、今回はこれまでの項目数を精査すると同時に、担当教員による個別質問を3項目設定できるように調査用紙を改善した。その結果の良し悪しの判断は、教員コメントを御参照いただきたい。また、こうした調査を授業終了後に実施したのでは、当該授業の改善に反映できないから、できれば学期の中間で実施したいという意見が、複数の教員から寄せられている。これについては今後の課題としたい。

ところで授業の改善は学生との協同作業でもある。学生による授業評価の記入内容の信頼性を高めるためには、教員に学生を特定できないような措置を取りながら、記名式の調査用紙を採用して学生の記載者責任の自覚や増進を促す工夫も考慮されるべきであろう。あるいは、各授業科目における達成度を、コースカタログやシラバスに記載し、その結果を問うことで学生の自己評価としての機能を高めることも考えられる。

総合教育センターは、こうした授業への学生の主体的参加を促す方策を模索しながら、授業の改善に資する情報を得るための調査を、今後も引き続き実施していきたい。

⁵ 佐々木恒夫・齊藤毅憲・渡辺峻編著 2006, 「大学教員の人事評価システム」中央経済社。

⁶ 天野智水 2006, 「学生による授業評価を概観する」有本 章・北垣郁雄編著『大学力』ミネルヴァ書房, 282-287 頁。

表11-1 全学共通教育(講義・演習)科目における項目別の評価値 (前期)

項目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問					
1 あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	6,862	1	4	3.79	0.49
2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	6,865	1	4	3.20	0.70
●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
3 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的, 内容, 成績評価の基準は適切に示されましたか。	6,860	1	4	3.29	0.60
4 授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	6,841	1	4	3.24	0.62
5 授業の説明は理解しやすかったですか。	6,871	1	4	3.09	0.78
6 あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	6,870	1	4	3.04	0.76
7 黒板, 視聴覚・情報機器を使用する授業の場合, 使い方は適切でしたか。	6,838	1	4	3.14	0.73
8 教科書やプリントなどの補助教材は, 授業内容の理解に役立ちましたか。	6,823	1	4	3.21	0.70
9 あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。	6,858	1	4	3.15	0.70
10 教員が授業に熱意をもっていると感じられましたか。	6,865	1	4	3.32	0.69
11 教員は, あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	6,582	1	4	3.05	0.79
12 総合的に判断して, この授業に満足していますか。	6,769	1	4	3.14	0.76

注) 表中の平均値は, 回答した選択肢, 例えば「まったくそう思わない」を1点, 「そう思わない」を2点, 「そう思う」を3点, 「強くそう思う」を4点として算出した。数値が大きいほど肯定的に評価されている。以下の表も同様。

表11-2 全学共通教育(講義・演習)科目における項目別の評価値 (後期)

項目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問					
1 あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	4,681	1	4	3.70	0.56
2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	4,668	1	4	3.22	0.69
●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
3 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的, 内容, 成績評価の基準は適切に示されましたか。	4,683	1	4	3.30	0.59
4 授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	4,679	1	4	3.28	0.59
5 授業の説明は理解しやすかったですか。	4,681	1	4	3.13	0.76
6 あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	4,686	1	4	3.09	0.75
7 黒板, 視聴覚・情報機器を使用する授業の場合, 使い方は適切でしたか。	4,679	1	4	3.23	0.69
8 教科書やプリントなどの補助教材は, 授業内容の理解に役立ちましたか。	4,681	1	4	3.26	0.67
9 あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。	4,684	1	4	3.20	0.69
10 教員が授業に熱意をもっていると感じられましたか。	4,680	1	4	3.35	0.65
11 教員は, あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	4,554	1	4	3.15	0.73
12 総合的に判断して, この授業に満足していますか。	4,627	1	4	3.19	0.71

表12 全学共通教育(実験・実習・実技)科目における項目別の評価値 (前期)

項目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問					
1 あなたはこの実験にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	328	1	4	3.88	0.36
2 あなたはこの実験に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	328	1	4	3.63	0.54
●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
3 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的, 内容, 成績評価の基準は適切に示されましたか。	327	1	4	3.47	0.56
4 実験の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	327	1	4	3.41	0.60
5 この実験はよく準備されていて, 予定の実験が円滑に進められたと思われましたか。	324	1	4	3.42	0.65
6 使用した器具や設備は良いと思われましたか。	327	1	4	3.47	0.61
7 教員の説明やプリントの内容はわかりやすいと思われましたか。	325	1	4	3.38	0.65
8 授業時間数に対して, 実験項目数は適切でしたか。	321	1	4	3.44	0.62
9 実験は学生の反応(理解度)を確認しながら進められていましたか。	324	1	4	3.49	0.59
10 教員は, あなたが提出したレポートに対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	319	1	4	3.34	0.65
11 教員が授業(実験)に熱意を持っていると感じられましたか。	327	1	4	3.63	0.56
12 総合的に判断して, この授業に満足していますか。	324	1	4	3.55	0.61

表13-1 専門(講義・演習)科目における項目別の評価値 (前期)

項目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問					
1 あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	11,887	1	4	3.81	0.45
2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	11,856	1	4	3.20	0.69
●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
3 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的, 内容, 成績評価の基準は適切に示されましたか。	11,885	1	4	3.31	0.62
4 授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	11,853	1	4	3.27	0.64
5 授業の説明は理解しやすかったですか。	11,897	1	4	3.08	0.79
6 あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	11,906	1	4	3.01	0.76
7 黒板, 視聴覚・情報機器を使用する授業の場合, 使い方は適切でしたか。	11,877	1	4	3.15	0.74
8 教科書やプリントなどの補助教材は, 授業内容の理解に役立ちましたか。	11,880	1	4	3.25	0.71
9 あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。	11,898	1	4	3.15	0.71
10 教員が授業に熱意をもっていると感じられましたか。	11,889	1	4	3.37	0.69
11 教員は, あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	11,329	1	4	3.10	0.77
12 総合的に判断して, この授業に満足していますか。	11,752	1	4	3.16	0.75

表13-2 専門(講義・演習)科目における項目別の評価値 (後期)

項目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問					
1 あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	10,480	1	4	3.77	0.47
2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	10,451	1	4	3.28	0.65
●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
3 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的, 内容, 成績評価の基準は適切に示されましたか。	10,495	1	4	3.37	0.59
4 授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	10,488	1	4	3.35	0.60
5 授業の説明は理解しやすかったですか。	10,506	1	4	3.20	0.74
6 あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	10,504	1	4	3.13	0.72
7 黒板, 視聴覚・情報機器を使用する授業の場合, 使い方は適切でしたか。	10,485	1	4	3.26	0.70
8 教科書やプリントなどの補助教材は, 授業内容の理解に役立ちましたか。	10,501	1	4	3.33	0.66
9 あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。	10,503	1	4	3.26	0.67
10 教員が授業に熱意をもっていると感じられましたか。	10,501	1	4	3.42	0.63
11 教員は, あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	10,142	1	4	3.21	0.72
12 総合的に判断して, この授業に満足していますか。	10,340	1	4	3.26	0.70

表14-1 専門(実験・実習・実技)科目における項目別の評価値 (前期)

項目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問					
1 あなたはこの実験にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	781	3	4	3.96	0.20
2 あなたはこの実験に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	781	1	4	3.46	0.59
●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
3 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的, 内容, 成績評価の基準は適切に示されましたか。	782	1	4	3.40	0.56
4 実験の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	783	1	4	3.48	0.57
5 この実験はよく準備されていて, 予定の実験が円滑に進められたと思われましたか。	781	1	4	3.32	0.71
6 使用した器具や設備は良いと思われましたか。	782	1	4	3.32	0.67
7 教員の説明やプリントの内容はわかりやすいと思われましたか。	783	1	4	3.18	0.71
8 授業時間数に対して, 実験項目数は適切でしたか。	785	1	4	3.30	0.67
9 実験は学生の反応(理解度)を確認しながら進められていましたか。	785	1	4	3.17	0.70
10 教員は, あなたが提出したレポートに対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	763	1	4	3.22	0.67
11 教員が授業(実験)に熱意を持っていると感じられましたか。	783	1	4	3.39	0.63
12 総合的に判断して, この授業に満足していますか。	773	1	4	3.28	0.68

表14-2 専門(実験・実習・実技)科目における項目別の評価値 (後期)

項目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問					
1 あなたはこの実験にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	1,611	1	4	3.95	0.24
2 あなたはこの実験に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	1,608	1	4	3.54	0.57
●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
3 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的, 内容, 成績評価の基準は適切に示されましたか。	1,615	1	4	3.44	0.55
4 実験の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	1,615	1	4	3.50	0.56
5 この実験はよく準備されていて, 予定の実験が円滑に進められたと思われましたか。	1,609	1	4	3.45	0.61
6 使用した器具や設備は良いと思われましたか。	1,609	1	4	3.39	0.60
7 教員の説明やプリントの内容はわかりやすいと思われましたか。	1,612	1	4	3.26	0.68
8 授業時間数に対して, 実験項目数は適切でしたか。	1,611	1	4	3.34	0.63
9 実験は学生の反応(理解度)を確認しながら進められていましたか。	1,613	1	4	3.24	0.69
10 教員は, あなたが提出したレポートに対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	1,595	1	4	3.16	0.76
11 教員が授業(実験)に熱意を持っていると感じられましたか。	1,614	1	4	3.40	0.63
12 総合的に判断して, この授業に満足していますか。	1,599	1	4	3.35	0.63

表15-1 教職(講義・演習)科目における項目別の評価値 (前期)

項 目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問					
1 あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	294	2	4	3.87	0.25
2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	292	1	4	3.27	0.73
●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
3 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的, 内容, 成績評価の基準は適切に示されましたか。	291	1	4	3.39	0.62
4 授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	291	1	4	3.30	0.66
5 授業の説明は理解しやすかったですか。	294	1	4	3.36	0.75
6 あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	294	1	4	3.28	0.67
7 黒板, 視聴覚・情報機器を使用する授業の場合, 使い方は適切でしたか。	293	1	4	3.32	0.74
8 教科書やプリントなどの補助教材は, 授業内容の理解に役立ちましたか。	294	1	4	3.44	0.64
9 あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。	293	1	4	3.32	0.67
10 教員が授業に熱意をもっていると感じられましたか。	293	1	4	3.52	0.66
11 教員は, あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	269	1	4	3.24	0.77
12 総合的に判断して, この授業に満足していますか。	292	1	4	3.35	0.73

表15-2 教職(講義・演習)科目における項目別の評価値 (後期)

項目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問					
1 あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	406	2	4	3.81	0.43
2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	406	1	4	3.28	0.64
●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
3 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的, 内容, 成績評価の基準は適切に示されましたか。	403	1	4	3.38	0.55
4 授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	405	1	4	3.36	0.59
5 授業の説明は理解しやすかったですか。	407	1	4	3.28	0.71
6 あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	407	1	4	3.24	0.67
7 黒板, 視聴覚・情報機器を使用する授業の場合, 使い方は適切でしたか。	407	1	4	3.22	0.75
8 教科書やプリントなどの補助教材は, 授業内容の理解に役立ちましたか。	406	1	4	3.35	0.65
9 あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。	407	1	4	3.30	0.64
10 教員が授業に熱意をもっていると感じられましたか。	407	1	4	3.39	0.65
11 教員は, あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	388	1	4	3.09	0.75
12 総合的に判断して, この授業に満足していますか。	398	1	4	3.24	0.69